

地球の歴史 歩いて体感

八学大で環境教育プログラム

子どもら、生物の進化など学ぶ

テレビドラマ「北の国から」で知られる脚本家・倉本聰さんが主宰するNPO法人「C・C・C富良野自然塾」のプログラム「46億年地球の道」が10月27日、八戸学院大で開かれた。園児、児童ら約100人が参加し、地球の46億年の歴史を、4600歳の距離に置き換えた道を歩く

学んだ。八戸学院地域連携研究センター（田中哲センター長）が主催し、青森県内では初の開催となった。同プログラムは2006年に始まり、北海道などの常設施設のほか、全国で出張講座を行っている。

この日は、幼稚園児と小学生を対象に3部に分けて実施。インストラクターの中島吾郎さん（42）が、直径1歳のバルーンを地球に見立て、人が飲める水はごくわずかであることや、月と太陽の距離などを説明。

続いて、小学生が4600歳の道を歩き、地球環境の変化や生物の進化の過程を、イラストなどをしながら楽しく学んだ。園児のグループは、体育館の中で46歳の道を歩いて同様の体験をした。

市立根岸小3年の佐藤夕空さんは「人よりも先に虫が先に誕生していたことに驚いた。体を動かしながら地球についてすべて面白かった」と目を輝かせた。

（松渡拓）